



■ベトナムを初めて訪ねたのはいつですか。

蕪木 90年代前半に叔父に連れられて、ホーチミンに行ったのが最初です。以来、ベトナムの持つ活気や熱気に惹かれ、大学院を卒業するまでに10回以上もベトナムを訪ねました。しかし、当時はベトナムでビジネスをするつもりはなく、大学院を出てからは日本の大手監査法人で働きはじめたのです。

■その後、どのような経緯でベトナムで働くことになった

のですか。

蕪木 ヒョンなことから当時勤務していた監査法人のベトナム現地提携先事務所が駐在員を探していることを知り、思い切って希望を出してみたところ、アッサリと認めれてしまったのです。

その結果、99年から3年間はベトナムで駐在員として勤務することになり、00年には日本人で初めてベトナムの公認会計士資格を取得しました。そして、03年に独立してからは日本とベトナムを往き来し、日系企

業のベトナム進出を支援しつつづけています。

■今はベトナムのどのようなところに魅力を感じていますか。

蕪木 何より急激な経済成長が見込めるところです。これまでベトナムは中国などの影に隠れて、あまり存在感がありませんでした。しかし、最近では新聞紙上などでベトナムの話題が頻繁に掲載されています。

また、あるレポートによると、ベトナムは50年にはPPPベース（購買力平価説）でイタリアや韓国を抜いて、世界14位になると予測されています。その原動力はどこにあるのかというと、ベトナム人の若さにあると思います。実際、ベトナムは国民の平均年齢が25〜26歳と日本よりも20歳以上も若く、海外で学んだ40代くらいの人たちがリーダーとなって、国づくり、企業づくりを展開しています。ちょうど日本の60年代を思わせるような上り調子にあるのです。日本の国内需要が停滞してしまっている今、企業が活路を見出すには海外市場を開拓する以外にありません。その際、ベトナムは非常に魅力的な国だと思うのです。

■現在、ベトナムに進出している日系企業は何社くらいあるのですか。

蕪木 1000社前後あると思います。ハノイにはトヨタ、ホンダ、パナソニックといった大手が多く、ホーチミンには中堅・中小が多いという印象があります。本来はホーチミンのほうが経済的に発達していたのですが、政府がハノイに大企業を誘致したため、このような分布になってしまったのです。

■そういった企業はベトナムのマーケットにも魅力を感じているのでしょうか。

蕪木 人口9000万人以下ですが、急成長しているマーケットなので、それが魅力で進出してくる企業が増えていっていると思います。

■かつては人件費の安さで人気がでしたが、現在はどのようにうかがうか。

蕪木 以前に比べると、人件費はかなり高くなっています。中国の都市部の6〜7割くらいといったところでしょうか。

一方で人材の質もドンドン高くなっていくように思います。最近では学校で第一外国語として日本語を選択できる場所も増えてきたので、日本語を話せたり、興味を持っていく人材も増えてきました。当社でも大勢のベトナム人スタッフを雇っていますが、みんな熱心に働いてくれています。

蕪木優典

■税制などに関して注意すべきことはありますか。

蕪木 税制自体良く似ているのですが、法人税の損金算入が認められない事例が日本的な感覚と異なる場合があったりしますので注意が必要です。

■顧問先はどのくらいいますか。

蕪木 顧問や税務、監査クライアントを含めると300社程度です。昨今のベトナムへの企業進出が増えていることもあり、毎月5社〜10社程度増えております。企業の規模は一部上場の現地法人から個人出資の事業者まで実に幅広くなっています。業種に関して製造業、縫製、サービス、ITなど多種多様です。

■何人くらいの体制で事務所経営を行っているのですか。

蕪木 ベトナムでは監査とコンサルティング、人材採用支援といった3つの事業を展開しており、ハノイとホーチミンの2カ所に事務所を構え

ています。スタッフは合計すると100名強で、日本人は4名です。ちなみに、カンボジアにも法人を持っていて、そこには2名の日本人スタッフがいます。

■ところで、顧問先なかで現地化をすすめている企業はどの程度ありますか。

蕪木 現地化が現地の方に経営を任せるという意味であるとするならば、あまり多いとはいえないと思います。コストカットのために、日本人スタッフの数を減らそうという方針はこの会社もあると思います。

ベトナムに外資導入が本格的に始まったのは94年前後からなので、中国に比べても10〜15年ほど遅れをとっている印象があります。ですから、まだまだ現地の人を外資系の会社の責任者や経営者になるという例は少ないようです。

■これからも日本とベトナムの経済交流のために尽力しつづけてください。



急成長を遂げるベトナムで 日系企業の監査、コンサルティング、 人材採用支援業務を展開!!

蕪木優典氏は大学時代にベトナムに魅せられ、そして監査法人勤務時代にはベトナムに駐在していたという経歴の持ち主。その後、日本で初めてベトナムの公認会計士試験に合格し、現在は現地で300社以上の日系企業の監査、コンサルティング、人材採用支援業務を展開しているという。その経験からドイモイ（改革開放）が進むベトナムの魅力やベトナム進出の際の注意点について語ってもらった。

トップ
会計人

蕪木優典（かぶらぎ・ゆうすけ） I-GLOCAL代表取締役／公認会計士

1972年生まれ。慶應義塾大学経済学部卒業。96年朝日監査法人（現在あずさ監査法人）入所。00年KPMGベトナム（当時アンダーセンベトナム）へ出向。同年日本人で初のベトナム公認会計士試験に合格し、ベトナム公認会計士となる。03年に独立、現在はI-GLOCAL代表取締役を務め、ベトナム進出企業の支援を展開している